

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.77

2011.6.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.77 目次

平成 23 年度総会報告（収支報告）	2
東日本大震災・緊急災害時動物救援活動	3-4
東日本大地震に伴う水鳥救護に関する海難事故報告	5-7
「第 65 回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい」参加報告	8
平成 23 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」協賛団体のご紹介	9
寄稿写真のご紹介	10
「多くの動物たちも受難の時」	11
寄付のお礼／書籍ご提供のお礼	11
事務局日誌	12

平成23年度総会報告（収支報告）

平成23年3月12日（土）に平成23年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、平成22年度収支報告・平成23年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告（特定非営利活動）

平成22年度収支報告書（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	2,047,000	事業費	
事業収入	0	①傷病野生動物の救護と野生復帰	358,925
委託事業収入	10,052,774	②病性鑑定及び疫学調査	190,180
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	8,637,851
寄付金収入	179,927	④野生動物の傷病予防に関すること	29,050
預金利息	13,047	⑤生物多様性の保全に関すること	83,260
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	217,070
		管理費	2,432,518
		租税公課（消費税）	237,100
当期合計金額	12,292,748	当期合計金額	12,185,954
当期収支差額	106,794		
前期繰越収支差額	30,069,279		
次期繰越収支差額	30,176,073		

<平成22年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業（水鳥救護研修・情報整備事業等）
- ・油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成事業
- ・日本獣医生命科学大学、東京環境工科専門学校 等委託特別実習の開催
- ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集計、学会発表
- ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施（共催）
- ・ボランティア向け講習会の開催
- ・学術講習会の開催、東京バードフェスティバルに出展（東京都支部）
- ・神奈川県野生動物リハビリテーター養成事業（神奈川支部）
- ・大阪野生動物リハビリテーター養成事業の開始（大阪支部）

平成23年度予算案（平成23年1月1日から平成23年12月31日まで。単位：円）

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	2,500,000	事業費	
事業収入	400,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	900,000
委託事業収入	8,000,000	②病性鑑定及び疫学調査	100,000
補助金収入	500,000	③学会報告、会報、講習会、HP等	8,470,000
寄付金収入	500,000	④野生動物の傷病予防に関すること	10,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関すること	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	100,000	⑦他団体との交流	200,000
		管理費	2,000,000
		租税公課（消費税）	300,000
当期合計金額	12,000,000	当期合計金額	12,000,000
前期繰越収支差額	30,176,073	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		時期繰越収支差額	30,176,073

東日本大震災・緊急災害時動物救援活動

2011年3月11日に発生した東日本大地震とそれに伴う大津波、そして福島県における原子力発電所の事故により、多くの人々が被災され、また避難生活を余儀なくされる事態となってしまいました。その際、それまで各家庭で飼われていた動物たちも、やむを得ない理由で飼い主の方と離れ離れになってしまったり、あるいは取り残されてしまったりしたケースが各地で確認されました。

こうした状況の中で、そのような動物たちの命を守り、当面、できる限り良好な生存条件を保ちながら、やがて元の飼い主やあるいは新たな飼い主とともに、再び健やかな生活をおくることができるよう、関係各位が協力して対応にあたることが確認され、「緊急災害時動物救援本部」が発足いたしました。この救援本部は、(財)日本動物愛護協会、(公社)日本動物福祉協会、(公社)日本愛玩動物協会、そして(社)日本獣医師会の4団体により運営され、現地における動物の救護活動や一時預かり、支援物資の調達、活動資金の供与など、幅広い活動を展開しております。

また、今回被災した岩手県、宮城県、福島県を始め、それぞれの地域に現地の動物救援本部が設置され、活動を展開していることもあり、そうした現場への専門家の派遣なども順次行われています。

今回、野生動物救護獣医師協会(WRV)は直接そこに名を連ねているわけではありませんが、(財)日本動物愛護協会の評議員も務めている馬場国敏理事が、環境省からの委嘱もあり、緊急災害時動物救援本部からの派遣要員の中心メンバーとして、特に福島県の現場を中心に救護活動に尽力しております。

福島県においては、震災のみならず原子力発電所の事故により、自宅に戻ることができない多くの避難民の方々がおられるため、多くのペットたち(大半はイヌやネコたち)の行く末が危ぶまれておりました。そこで、福島県、郡山市、いわき市、(社)福島県獣医師会、そして福島県動物愛護ボランティア会が中心となって、「福島県動物救護本部」が立ち上げられ、現地における被災動物(ペット)の保護・飼養、健康管理、飼い主の探索や新たな飼い主の斡旋等に関わる支援活動が展開されております。中でも、シェルターの設置による被災動物の救護活動や、一時預かりは活動の大きな拠りどころとなっており、馬場理事も度々現場に出向き、収容された動物たちの診断や治療、そして飼養に携わっております。

こうした活動は、今後も当分の間継続される模様で、内外の関係者の協力のもと、できる限りの成果があがることを祈るばかりです。



写真提供：緊急災害時動物救援本部

さらに、馬場理事が神奈川県川崎市において主催している馬場総合動物病院と野生動物ボランティアセンター(所長：皆川康雄 WRV 副会長)では、先の関係団体、および緊急災害時動物救援本部の要請により、現地で収容しきれない動物たち(イヌやネコたち)の避難先として、その受け入れを了承しました。既に、動物病院のほうには、順次そうした動物たちが移されてきており、スタッフの方々により、健康管理も含めた日常的な面倒がみられております。

また、ボランティアセンターのほうも、今後の収容の可能性を予期して、いつでも動物たちを新たに収容できるよう、内部の改造や必要な準備が整えられております。同時に、収容された動物たちの運動不足の解消やストレスの発散なども視野に入れ、近接する形で運動場なども整備されました。

こうした一連の活動の準備や推進にあたっては、神奈川県野生動物リハビリテーターを始めとする多くのボランティアの方々にも多大なる協力をいただいております、改めて感謝の意を表する次第です。



野生動物ボランティアセンター内に準備された犬猫保護舎



被災地から救護されたネコ



整備された被災動物のための運動場



救護現場で使用するための資材

福島県内の今後の対応につきましては、馬場理事と地元・福島県鳥獣保護センターの所長をしておられる溝口俊夫先生との間でも、随時連絡を取り合い、連携・協力を確認しております。溝口先生の方では現在、交通事故で死亡してしまった個体や有害駆除にあった個体などを使って、福島原子力発電所からの放射線の被爆量などの調査を行い、影響の実態を確認するとともに、その研究結果を世界に向けて発信すべく着々と作業を進めておられるようです。

なお、(社)東京都獣医師会をはじめとする各地の獣医師会も、現場の避難所では収容しきれない動物たちの受け入れ等を行っており、既にそれぞれの会員病院などでケアが進められております。WRVの会員となっている病院でも、こうした活動に協力いただいているところも少なくないものと思われますので、ここに併せてお礼申し上げます。

東日本大震災に伴う様々な動物たちの保護活動については、これからも内外の関係者等の協力を得ながら進められていくものと思われますが、会員の皆様にも、是非、こうした活動に関心を寄せていただければ幸いです。

東日本大地震に伴う水鳥救護に関する海難事故報告

千葉県石油コンビナート火災に伴う油流出事故

WRV 副会長 皆川 康雄

WRV 事務局 鈴木 麻衣

2011 年 3 月 11 日午後 14 時 46 分に発生した東日本大地震を起因とする、千葉県石油コンビナート火災によりアスファルトが流出し、15 日の時点で 100 羽程の油汚染鳥が確認される事故が発生しましたので、報告いたします。なお、火災は同月 19 日、鎮火に至りました。

状況の把握と WRV の対応

3 月 15 日

- ・情報源：千葉県自然保護課鳥獣対策室

千葉市中央区中央港で 100 羽ほどの、コールトール状の物質により油汚染されたカモ類が確認されました。腹部の一部が汚染されていましたが、この段階ではまだ体力があり、人が近づくと海に向けて逃げていく状態でした。数日以内には衰弱すると考えられ、捕獲時は市川市行徳所在の千葉県行徳野鳥観察舎が受け入れ予定となりました。

- ・WRV の対応：中津賞 WRV 大阪支部長ら、専門家会員に向け状況の報告と協力の要請を出しました。

3 月 16 日

- ・情報源：千葉県行徳野鳥観察舎

行徳野鳥観察舎の調べにより、同観察舎から観察されたセグロカモメ 105 羽中約 13 羽、ユリカモメ 188 羽中約 38 羽が汚染されていることが確認されました。程度は個体によって様々ですが、胸から脇、下尾筒などに油が付着し、中には顔や腹部から下尾筒までという個体も見受けられました。この時点では十分に飛べるため捕獲が困難で、16 日の段階では油汚染の傷病鳥は保護搬入されませんでした。

3 月 17 日

- ・WRV の対応：WRV 神奈川支部の野生動物リハビリテーターに向け、状況の報告と協力体制の要請を出しました。

3 月 19 日

- ・情報源：千葉県行徳野鳥観察舎

行徳野鳥観察舎の調べにより、同観察舎から観察されたセグロカモメ約 72 羽中約 5 羽、ユリカモメ 212 羽中約 3 羽が汚染されていることが確認されました。この調査では、比較的状态の悪い汚染個体はあまり見当たりませんでした。

- ・情報源：千葉県自然保護課鳥獣対策室、千葉県行徳野鳥観察舎

海上災害防止センターによる保護・回収が行われ、観察舎野鳥病院にスズガモ雌 2 羽（上・下面の広範囲に油が付着）が入所し、洗浄、活性炭の投与、給餌、補液が行われました。また、死体で回収されたスズガモ 2 羽（上・下面の広範囲に付着、1 羽は食べられた痕あり）、ヒドリガモ 1 羽（上・下面に付着、広範囲に食べられた痕あり）、ハジロカイツブリ 1 羽（部分的に付着）は、冷凍保存されました。その他、捕獲に至らないカモ類が 5～6 羽いるとのことでした。

- ・環境省水鳥救護研修センターの対応：救護器材貸与として、タイベック、中性洗剤、水温計、歯ブラシ、ゴム手袋、タオル、エチルアルコール、コットン、マスク、聴診器、ゴミ袋、ガムテープ、カルテ、強制給餌用シリンジ及びチューブ等の輸送準備を行いました。

3月20日

- ・情報源：千葉県行徳野鳥観察舎

3月19日に観察舎野鳥病院へ入所したスズガモ2羽の内、1羽の死亡が確認されました。

3月30日

- ・WRVの対応：現地調査（図1、写真1～4参照）

調査者：環境省鳥獣保護業務室、千葉県自然保護課鳥獣対策室、WRV 皆川康雄副会長

調査地点：千葉県千葉市中央区中央港周辺、油汚染鳥約100羽確認地点および6羽（生体2羽・死体4羽）保護地点

調査地点でスズガモ約30羽が観察されましたが、油の付着は認められず、死体の発見もありませんでした。

渡り等による分散で、生息数自体が減少していることが考えられました。スズガモ1羽が集団と行動を共にせず、羽づくろいをしていましたが、遠方であったため油の付着は確認できませんでした。

流出した油の防除作業がほぼ終了し、海上の様子から、今後大規模な油汚染鳥の保護は無いものと考えられ、事態は収束に向かっていると判断しました。

4月4日

- ・情報源：海上災害防止センター

海上災害防止センターによる洋上での作業は終了し、海岸線に付着したアスファルトを、高温洗浄で除去する作業が行われました。震災関連に器材等が動員されているため作業に時間がかかり、また、海岸線が長いので、この時点では5月一杯作業が続く見込みでした。季節変化による気温の上昇でアスファルトが液状化し、近づいた鳥に付着する可能性が懸念されました。

4月5日

- ・情報源：千葉県行徳野鳥観察舎

3月19日に観察舎野鳥病院へ入所したスズガモ1羽が、放鳥されました。

4月18日

- ・情報源：日本海鳥救護研究センター

調査の結果、海岸線汚染範囲は稲城海浜公園から富津港に及ぶ約42kmであることがわかりました。付着したアスファルトの除去作業は、4月25日に全て終了するという見通しを立てました。人工岸壁の多い海域であると共に、冬鳥がほぼ渡りを終えた後であるため、この日、調査域で海鳥は確認されませんでした。

活動を通して

今回の油流出事故における油汚染鳥の確認数と捕獲数の差については、火災や余震の影響により活動が直ちに開始できず、その間に渡り等で分散したことや、事故現場の海岸線が人工岸壁の多い場所であったため、衰弱した油汚染鳥が上がってこられずに保護できなかったというケースが考えられます。保護に至らなかった油汚染鳥のうち、一羽でも多くの鳥が自己回復し、野生で生きていることを願ってやみません。

油流出事故では、情報の共有をはじめ、行政、地方自治体、NPO・NGO法人、地元の方々など、様々な組織

の力が必要となり、刻一刻と変化していく状況に対し、連携して素早く対応していく必要があります。そのためには、日頃からしっかりとした体制づくりを行い、有事に備えておくことが大切です。

また、組織内の連携も重要であり、現在 **WRV** 神奈川支部のある野生動物ボランティアセンターでは、主宰の馬場動物病院とともに被災したペットの受入れ施設となり、被災地への物資の提供を行っておりますが、この活動では、リハビリテーター同士の信頼の上に成り立つ連携により、スムーズに作業が遂行されています。

石油コンビナート火災に伴う油流出事故は収束しましたが、東日本大震災の被災はまだ続いており、長期的な支援が必要とされます。**WRV** では、今後も組織力や経験を活かし、油汚染鳥や被災動物の救済を通じた復興支援を続けてまいります。

参考図、写真



図 1. 油汚染鳥 6 羽（生体 2 羽・死体 4 羽）保護現場地図（千葉県千葉市中央区）



写真 1. 保護現場全景（3 月 30 日撮影）



写真 2. 油防除後の海岸（3 月 30 日撮影）



写真 3. 油汚染鳥保護現場（3 月 30 日撮影）



写真 4. 油汚染鳥保護現場（3 月 30 日撮影）

「第 65 回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい」参加報告

WRV 会 長 新妻 勲夫
WRV 事務局 箕輪多津男

去る 5 月 15 日（土）、ヒルトン東京（東京都新宿区西新宿 6 丁目）にて、環境省および（財）日本鳥類保護連盟の主催、ならびに文部科学省と林野庁の後援により、標記の通り「全国野鳥保護のつどい」が開催されました。

当日は、日本鳥類保護連盟の総裁であられる常陸宮殿下、同妃殿下ご臨席のもと、多くの鳥類保護関係者等の参加を得て、華やかに式典が催されました。

式典では、まず最初に松本 龍環境大臣と（財）日本鳥類保護連盟の矢島 稔会長より主催者としてのごあいさつがあり、続く来賓あいさつのあと、常陸宮殿下から参加者に向けての「おことば」がありました。

次に「野生生物保護功労賞」の表彰式へと移りましたが、本年度は岩手県立大学名誉教授の由井正敏先生が（財）日本鳥類保護連盟総裁賞を受賞されました。由井先生は、永年にわたり森林生態系や森林環境の保全について、そこに生息している鳥類群集や鳥類相との関係を手掛かりに研究されてこられた、わが国を代表する鳥類学者の一人です。特に、鳥類相を明らかにするための様々なセンサス法の確立を始め、イヌワシやクマタカを始めとする希少猛禽類の保全のための研究、さらには健全な森林育成のための管理手法の探究に至るまで、大変幅広い研究活動を続けてこられました。ここに改めて称賛の意を表したいと存じます。なお由井先生のほかにも、全国各地で野生生物保護活動に尽力されてこられた方々が、環境大臣賞、文部科学大臣奨励賞、林野庁長官感謝状などを受賞されましたが、それぞれの受賞者の方々にも、重ねて深く感謝の意を表したいと思います。

式典の後半はトークセッションということで、声帯模写芸ではわが国の第一人者としておなじみの江戸家猫八さんが進行役となり、パネラーの方々との間で、身近な野鳥と環境の大切さを改めて認識させられるような、なごやかなトークが展開されました。中でも、今回環境大臣賞を受賞され、東京を代表する愛鳥モデル校である福生市立第五小学校の生徒さんたちによる、日頃の活動についての発言や、愛鳥活動に向けた宣言は、今回の式典に最も相応しいものとして印象に残りました。また、福生第五小学校の生徒さんたちとともに、同校のOBでもある（NP0）自然環境アカデミーの野村亮事務局長も登壇され、これまでのご自身の経験を振り返っておられましたが、そこに改めて長年に渡る活動の歴史と、世代を超えて受継がれるものの大きさというものを感じた次第です。

一連の式典のあと、場所を移して「愛鳥懇話会」が開かれましたが、先の式典の余韻を残しつつ、温かな雰囲気の中で、それぞれ参加者の方々が意見交換をされておられました。全国各地から、鳥類保護や自然環境保全に対する同じ思いや志を共有する方々が集う機会ということもあり、各位にとっていつになく貴重な一時となったものと思われます。

WRV では今後も、こうした方々との連携を図りながら、野生動物の保全に関わる活動発展のために、一層の努力をしてきたいと考えておりますので、皆様のご協力を改めてよろしくお願い申し上げます。



◆平成23年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」協賛団体のご紹介◆

WRV事務局 箕輪 多津男

WRVは、本年度も引き続き（公財）日本野鳥の会および（財）日本鳥類保護連盟との共催により、「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」を実施いたしております。

本年度のキャンペーンにつきまして、当協会あてにご協賛いただきました団体（または企業）は、それぞれ以下のとおりです。ポスターにも既にご芳名を掲載させていただきましたが、今年も多大なるお力添えを賜りましたことに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

<ヒナを拾わないでキャンペーン／協賛団体リスト>（43団体：五十音順）

社団法人 愛知県獣医師会	社団法人 秋田県獣医師会
社団法人 石川県獣医師会	イソップ薬品 株式会社
公益社団法人 大阪市獣医師会	社団法人 大阪府獣医師会
社団法人 北九州市獣医師会	社団法人 岐阜県獣医師会
社団法人 京都市獣医師会	社団法人 京都府獣医師会
株式会社 共立商会	株式会社 キリカン洋行
社団法人 静岡県獣医師会	NPO 法人 自然環境アカデミー
高尾霊園犬猫墓地	社団法人 千葉県獣医師会
DSファーマアニマルヘルス株式会社	東京環境工科専門学校
社団法人 東京都獣医師会	社団法人 栃木県獣医師会
財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所	社団法人 富山県獣医師会
社団法人 長崎県獣医師会	社団法人 名古屋市獣医師会
公益社団法人 新潟県獣医師会	社団法人 日本獣医師会
公益社団法人 日本動物病院福祉協会	社団法人 福岡県獣医師会
文永堂出版 株式会社	社団法人 北海道獣医師会
公益社団法人 三重県獣医師会	武蔵村山ペットメモリアルパーク
ムナテックス 株式会社	メリアル・ジャパン 株式会社
森久保薬品 株式会社	野生動物ボランティアセンター
野生動物リハビリテーター協会	NPO 法人 野鳥の病院
学校法人 ヤマザキ学園	株式会社 吉元
予防医学教育研究所	株式会社 レオニス
社団法人 和歌山県獣医師会	

会員の皆様には、前号のニュースレターとともに既にポスターを送らせていただきましたが、本キャンペーンの主旨をお汲み取りいただき、これまで以上に、その普及のためにご協力いただければ幸いに存じます。

本年3月に、日本は東北関東大震災という未曾有の災害に見舞われ、野鳥を始めとする野生動物にも、相当の被害が及んだことは想像に難くありません。なればこそ余計に野鳥の雛たちの健やかな成長と旅立ちをより一層願いつつ、野鳥の声がいつでも美しく響き渡るような自然環境の永続を目標に、これからも皆様と共に歩み続けていければと考えている次第です。

併せてWRVでは、傷病野生鳥獣の救護活動につきまして、さらなる努力をしまいる所存ですので、皆様の変わらぬご協力を、改めてお願い申し上げます。

寄稿写真のご紹介

星子廉彰氏からお送りいただいた、北海道における野生動物の姿をとらえた記録写真の第3段です。



コクマルガラス

撮影者：星子廉彰さん（WRV会員）
撮影場所：北海道内各地



ヘラサギ



テン



オオスズメバチ
－蛹から羽化する様子－



クスサン

※WRV ホームページ上のカラー版も是非ご覧ください。
(WRV ホームページアドレス：<http://www.wrvj.org/>)

－多くの動物たちも受難の時－

先の東日本(東北・関東)大震災、および未曾有の津波、さらには福島原子力発電所の異常事態等により、のべ約2万4千人にもおよぶ犠牲者や行方不明者(6月1日現在:警察庁や国土交通省の発表による)、そしてそれをはるかに上回る十数万人にもおよぶ避難生活者を数えるに至っておりますが、まずは、亡くなられたすべての方々のご冥福をお祈り致しますとともに、避難生活を送っておられるすべての方々の今後のご無事を、改めてご祈願申し上げます。同時に、一定の期間を要するものと思われませんが、被災されましたそれぞれの地域の、できる限りはよい復興を強く望んでいる次第です。

一方で、今回の震災と津波により、東北地方を代表する干潟として知られていた宮城県の蒲生干潟を始め、海岸地帯を中心に多くの貴重な自然環境と、そうした環境に生息していた数えきれない程多くの野生動物もまた、犠牲になったことは間違いありません。一部には石油コンビナート等からの油の流出もあり、海鳥類が被害に遭ったり、5月に入ってから、今度は各地で油の付着したカモメ類がかなり確認されたりもしました。また、地元で飼われていた相当数に上るペットたちも、犠牲になったり、あるいはやむ無き事情により、飼い主の方と別れなければならなくなってしまった模様です。



壊滅的な被害にあった蒲生干潟
(河北新聞 WEB より)

このように、人々だけではなく、野生の有無を問わず多くの動物たちにとっても今回の震災と津波は、この上なく大きな試練をもたらしましたが、人々とともにそうした動物たちの健全な状態と、さらには野生動物のおりなす豊かな生態系や、その舞台となる自然環境が、何らかの形で復活してくることを、今から祈りたいと思います。同時に、そのためにできることを、私たち一人一人がすこしずつでも実践していくことが何より大切になるに違いありません。

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者(敬称略) (平成23年2月25日から平成23年5月31日)

○寄付金(一般) 2011.2.25 越田雄史 4,000 円 ○寄付金(一般) 2011.3.2 須田動物病院 18,437 円
○寄付金(一般) 2011.3.11 中村富士子 10,000 円 ○寄付金(人災) 2011.4.1 アミ動物病院 20,694 円
○寄付金(一般) 2011.4.4 綱島奈美子 2,000 円 (安田 剛)

【 書籍ご提供のお礼 】

- (株)海洋工学研究所より、2000年に南アフリカ沖で起きたトレジャー号・油流出事件の際の対応記録をまとめた『ペンギン救出大作戦』(300部)のご提供をいただきましたので、ここに改めて深くお礼の意を表します。誠にありがとうございました。なお、本書籍につきましては、水鳥の救護に関わる研修会等において、順次活用させていただく予定にいたしております。

事務局日誌 2011.3.25～2011.6.12

=== 3月 ===

25：WRV ニュースレターNo.76 発行

27：動物病院向け野生動物救護に関する研修および意見交換会〔神奈川支部〕

対応：馬場、皆川

30：千葉県石油コンビナート火災に伴う油流出事故現地調査（環境省、千葉県）

調査：皆川

=== 4月 ===

02：神奈川県野生動物リハビリテーター更新講習会〔神奈川支部〕

対応：皆川

06：平成22年度「水鳥救護研修・情報整備事業」報告書 提出（環境省）

対応：鈴木

19：石原由貴司法書士との打合せ（村重石原合同司法書士事務所）

対応：新妻、筧

22：平成23年度事業・入札希望書類の提出（環境省）

対応：鈴木

22：KWR サロン（リハビリテーター同士の勉強会）〔神奈川支部〕

対応：皆川

29：新年度事業打合せ（（財）日本鳥類保護連盟）

対応：箕輪

=== 5月 ===

08：TSUBASA セミナー「愛鳥家として知っておきたい野鳥の救護」

講師：皆川

14～15：バードウィークイベント「この羽の持ち主は誰？」（ブーラシア）〔神奈川支部〕

対応：皆川

14～6/5：野生動物ボランティアセンターにおける救護活動風景の写真展（大倉山動物病院）〔神奈川支部〕

対応：皆川

15：第65回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい（ヒルトン東京）

対応：新妻、箕輪

18：（株）海洋工学研究所より『ペンギン救出大作戦』（300部）提供

対応：箕輪

23：小池百合子衆議院議員・政治研究会（ホテルメトロポリタン）

対応：新妻

23：石原由貴司法書士との打合せ（法人手続き等）

出席：新妻、皆川、倉林、筧、箕輪

27：川崎市主催イベント「橘公園ふれあい動物園」（川崎市高津区）〔神奈川支部〕

対応：皆川

=== 6月 ===

01：川崎市立中学校5名体験学習（野生動物ボランティアセンター）〔神奈川支部〕

対応：皆川

04：岩合光昭どうぶつ写真展関連イベントトークショー「野生動物の保護」（川崎市市民ミュージアム）

講師：馬場

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/>（E-mail）kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 77 2011.6.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄